

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13番3号 (電話) 0144-84-5611		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年5月29日	評価確定日	平成21年6月15日

【情報提供票より】(平成21年5月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 9月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤1人, 常勤換算11,5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 21,000円 暖房費(10~4月)7,000円	
敷金	有(40,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月17日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	58 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科医院・松井デンタルクリニック・さくら歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ほほえみ」は、自然環境に恵まれた苫小牧市の新興住宅地に位置し、近くの遊歩道は利用者の散歩などにも利用されている。本部を室蘭市に置く当グループホームは、苫小牧市に系列のグループホームを同じ年に開設し、相互訪問や研修を行うなど日々サービス向上に努めている。代表者は、理念に掲げているように、利用者一人ひとりがその人らしく、毎日楽しく暮らせるようにするためには、職員も楽しく仕事をすることが大切であると考え、職員とのコミュニケーションを大切に對話を常に心がけている。利用者は、職員と助け合いながらそれぞれが役割を持ち、代表者の思いのように、明るい笑顔で会話を交わしながら楽しい日々を過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の取り組みである地域との付き合いでは、町内会のお祭りに参加したり、市町村との連携においては、事業所で解決できない問題や判断出来ない事を市役所に相談に行くなど、積極的な取り組みを行っている。ホーム便りの発行、個人記録の管理方法の改善もなされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットに自己評価表を配布し、2週間程かけて職員同士で話し合いながら記入してもらい、管理者がまとめあげている。職員と代表者は、日々の介護の反省や再確認、介護の視点について再認識する事ができたと感じている。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>昨年は、町内会役員、民生委員、家族代表、訪問看護師、地域包括支援センター職員などが参加し3回開催している。事業所の現状報告やボランティア、身体拘束などについて意見が出されている。訪問看護師から、便秘や水分補給、嚥下などについて指導を受け日々の介護に役立っている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族が来訪した時に積極的に話しかける事で、家族との信頼関係が築かれ、貴重な意見や不満を聞く事ができていると感じている。家族から出された意見などは介護記録に記入し、申し送り時に報告して全職員で問題を話し合い、結果を家族に報告している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町内会に加入し、地域の夏祭りに出かけて出店などを楽しんでいる。近隣の幼稚園で収穫した大根をもらったり、散歩の途中で近隣の畑の収穫物をもらうなど、地域の人々との交流も行っている。日本舞踊やマジックなどのボランティアが来訪し、交流の場を設けている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「その人らしい自由な暮らしの中で、明るく豊かな毎日を過ごせるホーム」「ご家族に安心と信頼を、そして地域と共に歩むホーム」「スタッフは出会いに感謝しホームで働く喜びと誇りを持って日々まいしんします」という理念を掲げている。	○	現在の理念は、系列グループホームと同じ理念という事なので、職員で話し合う機会を持ち、事業所独自の理念が作成されるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所のパンフレットに掲載し、玄関と各ユニットに掲示している。職員には、理念のプリントを配布している。理念は、ミーティングの中で取り上げて再確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の夏祭りに出かけて出店などを楽しんでいる。近隣の幼稚園で収穫した大根をもらったり、散歩の途中で近隣の畑の収穫物をもらうなど、地域の人々との交流も行っている。日本舞踊やマジックなどのボランティアが来訪し、交流の場を設けている。	○	地域の人々が参加できるようなバザーなどを行いたい意向なので、その取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は、各ユニットに自己評価表を配布し、2週間程かけて職員同士で話し合いながら記入してもらい作成している。職員と代表者は、日々の介護の反省や再確認、介護の視点について再認識する事ができたと感じている。	○	次回は、自己評価後に全職員で再確認して話し合う機会を持ちたい意向なので、その取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は、町内会役員、民生委員、家族代表、訪問看護師、地域包括支援センター職員などが参加し3回開催している。事業所の現状報告やボランティア、身体拘束などについて意見が出されている。訪問看護師から、便秘や水分補給、嚥下などについて指導を受け日々の介護に役立てている。	○	今後は、全家族に運営推進会議の開催案内と議事録を送付することで、家族に運営推進会議の意義や役割などの理解を深めてもらうように期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所において解決できないような問題や、判断できない事が生じた場合は、代表者が市役所を訪問して相談したり、助言を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や電話、ホーム便りで、利用者の生活ぶりや事業所の様子を報告している。金銭出納記録は、毎月請求書と一緒に家族に送付している。体調変化がある場合は、随時電話で家族に連絡をしている。	○	ホーム便りを2ヶ月毎に定期的に発行したい意向なので、その取り組みを期待したい。職員の離職も、ホーム便りなどを利用して全家族に報告するよう取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時に積極的に話しかける事で、家族との信頼関係が築かれ、貴重な意見や不満を聞く事ができていると感じている。家族から出された意見などは介護記録に記入し、申し送り時に報告して全職員で問題を話し合い、結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重視し、異動は行っていない。職員が離職する時は、利用者説明をしている。離職前から後任の職員も重複して勤務するため、離職による利用者の動揺はないと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、業務扱いにして出来るだけ多くの職員が参加できるようにしているが、昨年は2回程の研修参加にとどまっている。内部研修として、系列のグループホームとお互いに相互訪問研修を行ったり、訪問看護師による嚆下などに関する勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧市グループホーム連絡会の研修会や忘年会に一般職員も積極的に参加している。参加した職員は、他の事業所職員などの先輩の話聞く事で勉強になり、仕事に役立てられる事が多いと感じている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と本人に見学に来てもらい、食事などを一緒にして事業所の雰囲気を感じてもらおうようにしている。本人の来訪が難しい場合は、代表者や管理者が病院や自宅を訪問して状況を把握しながら顔あわせをしている。利用開始後は、流れを説明しながら生活に慣れてもらうよう配慮し、食事時も席替えをしながら他の利用者との関係づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度や、洗濯物たたみ、掃除など利用者に応じて出来ることを手伝ってもらうようにしている。手伝いが苦手な利用者には、一緒に自分の部屋を片付けたり、自分の洗濯物をたたんでもらう事もある。職員と利用者は、野球や相撲などテレビを見て、一緒に応援し感動する事も多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	殆どの利用者は意志表示できるが、周りに遠慮していることもあるので、居室で話をしたり、外出した機会に思いを把握することができるようにしている。把握することが困難な場合は、表情を観察するなどの方法で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居間もない利用者の介護計画は、1週間ほど生活の様子をみて、医療情報や本人、家族の意向を取り入れ暫定的な計画を作成している。2～3ヵ月後を目処に職員が記録している「介護サービス計画書・モニタリング」を基に見直しをしている。家族の来訪時に説明しているが、難しい場合は郵送し返送してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、2つのユニット合同の会議を行い、心身の状況が安定している利用者は6ヵ月毎に見直しをしている。一人で行うことができた移動の動作に介助が必要になるなどの変化がある場合は、その都度見直しをしている。	○	家族の意向を介護計画に反映できるよう取り組みをしていきたいということなので、その実現を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や24時間対応の訪問看護を活かして点滴の実施や入院を回避している。家族の宿泊や利用者の個別の外出支援など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう、家族と協力して通院の介助をしている。協力医療機関やかかりつけ医以外にも近隣の眼科や泌尿器科など、必要に応じて適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来、本人、家族の意向に沿って医療機関や訪問看護の連携の下、2名の看取りを行っている。利用契約時に看取りに関する指針を文書にて説明し、家族、事業所、医療機関で話し合い、同意書を取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りを傷つけないよう排泄に関する言葉かけは大きな声を出さないようにしている。また、利用者に対して命令口調にならないよう職員間で注意をしている。スタッフルームに置いてある個人情報、棚にカーテンをかけてプライバシーに配慮している。	○	玄関に置いてある面会ノートを検討し、個人情報を保護することができるよう期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食、昼食の食事時間は、本人の状況をみて一人ひとりのペースを優先している。居間でテレビを観て過ごしたり、編み物やパズル、折り紙、週刊誌を読むなど本人の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を取り入れて食材配達業者の栄養士が献立を作成している。お米を研ぐ、もやしのひげ根を取る、後片付けをするなど一人ひとりの力を活かしている。今年からプランターで野菜を育てているので水やりをしながら収穫を楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の制限は無く、一人の利用者が週に2～3回ゆっくりと入浴をしている。入浴剤を使って温泉気分を楽しんだり、眠そうな時は時間を変えるなどしてタイミングを合せている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループホーム専用の大きな木製のゴミ箱にゴミを出しに行く、プランターの花の水やりをするなどの役割がある。また、居間に置いてある自転車マシンで運動をしたり、散歩に出かける、樽前祭りに出かけるなど、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴をしたり、グループホームの裏側にある遊歩道を散歩することもある。天気が良くても通院と重なって散歩ができないこともある。冬季は、月に1～2回通院や買物に出かけている。	○	冬季の外出の機会を増やしていきたいということなので、その実現を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けず、ユニットの入口にセンサーを設置して安全に配慮している。居室やユニットの入口に鈴をつけたり、スタッフルームから廊下が見えるよう壁に鏡を取り付けるなどの工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の5月に消防署指導の下、利用者参加で避難訓練、初期消火などの訓練をしている。今年は、消防署直通の緊急通報の電話を設置する予定なので、日中と夜間を想定した避難訓練を実施する予定である。現在、スプリンクラー設置の工事中である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者の栄養士が献立を作成し、熱量、たんぱく質、脂質の栄養管理をしている。利用者全員の食事量と水分量を記録し、食事量が低下している場合は、好きな食べ物で食欲がでるようにしている。水分は、一日に1000mlを摂取できるようゼリーやとろみをつけて工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、2つのテーブルを並べ、その横にソファとテレビを置いて寛ぐことができるようにしている。利用者の手作りの紙細工や行事の写真、季節の花を飾るなどして季節感を取り入れている。夏季は、陽射しが入り室温が高くなるので窓を開けて換気に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には、小さな紙製の表札や暖簾を掛けて区別ができるようにしている。仏壇や箆笥、ベッドなどを置き、観葉植物の鉢やカレンダー、家族の写真などを飾り、家族と職員が協力して居心地のよい居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。